

**製品名: ジメチルヒストン H3 (Lys36) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe03906**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	ジメチル化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン (pH 7.4)、0.15M NaCl、40% グリセロール、0.01% アジ化ナトリウム、0.05% 保護タンパク質を含む液体。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,ICC/IF 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:15 kDa;Observed MW: 17 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	H3C1
別名	H3K36me2; Histone H3/b; Histone H3/c; Histone H3/d; Histone H3/f
遺伝子 ID	8350
SwissProt ID	P68431
免疫原	標的タンパク質の残基に対応する合成ジメチル化ペプチド

**背景**

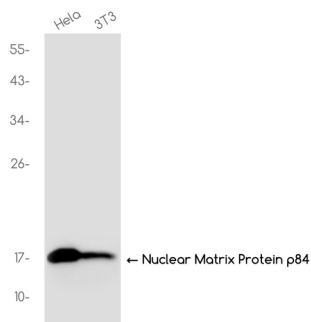
ヒストンの翻訳後修飾 (PTM) は、クロマチン構造を調節するエピジェネティクスの重要なメカニズムであり、「ヒストンコード」

と呼ばれます。ヒストンの PTM には、アセチル化、メチル化、リン酸化、新規アシル化などがあり、転写因子やその他のエピジェネティック制御因子へのクロマチンのアクセス性に直接影響を与え、ゲノム安定性や遺伝子転写などを変化させます。ヒストンのメチル化は、主にコアヒストンのアミノ末端にあるリジン残基とアルギニン残基で起こります。ヒストンのメチル化は、ヒストン中のどのアミノ酸 (Lys または Arg) がメチル化されているか、またメチル基がいくつ付加されているか (Lys のモノメチル化、ジメチル化、トリメチル化、Arg のモノメチル化、ジ対称 / 非対称メチル化) に応じて、遺伝子の転写を増加または減少させます。リジンのメチル化は主にヒストン H3 Lys4、9、27、36、79、および H4 Lys20 で起こり、アルギニンのメチル化は主にヒストン H3 Arg2、8、17、26、および H4 Arg3 で起こります。ヒストンメチラーゼ (HMT) とヒストンデメチラーゼ (HDM) が主な酵素です。

## 研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

## 画像データ



ジメチルヒストン H3 (Lys36) 抗体を使用した HeLa、3T3 溶解物中のジメチルヒストン H3 (Lys36) のウエスタンブロット分析。